

寝^{トマ}レ^レ 苫枕^レ 塊

〔意義〕 苫は、編藁なり、塊に土塊なり、親の喪中、子たるもの、その親の土に在るを思ふて、倚廬に在りて、苫を被り、土塊を枕にして寐ねるなり。

〔出處〕 儀禮既夕記に、既殯居^二倚廬^一、寝^レ苫枕^レ塊。

【参照】『故事熟語大辞典』 池田四郎次郎・著 宝文館 大正十四年九月発行

【眉雪の解説】

寝^レ 苫枕^レ 塊

〔読み下し文〕 苫^{とま}に寝^いね 塊^{つちくれ}を枕^{まくら}とす

〔意義〕 苫^{とま}は、編藁^{あみわら}なり、塊^{つちくれ}に土塊^{どかい}なり、親^{おや}の喪中^{もちゅう}、子^こたるもの、その親^{おや}の土^{つち}に在^あるを思^{おも}ふて、倚廬^{いろ}に在^ありて、苫^{とま}を被^{かぶ}り、土塊^{どかい}を枕^{まくら}にして寐^いねるなり。

〔現代口語訳〕 苫とは藁で編んだ筵^{むしろ}のこと。親を亡くし喪に服している子が、親の眠る土に思いを馳せ、粗末な小屋（倚廬）で苫を被り、土の塊を枕にして寝る。

すなわち、質素な生活と深い悲しみを表現したもの。

○編藁^{あみわら}とは、稲や麦などの茎^{くき}を乾燥^{かんぞう}させた「わら（藁）」を編んで作るものを指す。特に藁で編んだ筵^{むしろ}などを指すことが多い。